

被爆前の広島第二陸軍病院アルバム

寄贈／山下青史朗

山下千代寿さんは、1939年(昭和14年)11月に軍医として召集をうけ広島陸軍病院三滝分院に配属。後に同江波分院、同本院へと配置換えになった。その頃のアルバム。

被爆後、千代寿さんは負傷者の手当てに奔走した。

広島第二陸軍病院は、全壊全焼したため太田川堤防にトタンやムシロを集めてテントを張り、負傷者を収容。被爆直後から治療を求めて大勢の負傷者が詰めかけ、あふれかえった。

「真に九死に一生を得て、こうして平和な生活の明け暮れを過すことの出来る身の幸せを振り返って見て、つくづく心から戦争はいやだと思う。此の世界から何とかして戦争というものをなくし度いものである。平和であることの喜び、夫れは戦争の悲惨を身を以って体験したものでなくては、ほんとうには判らないのではないだろうか。」



1944年(昭和19年)9月
山下千代寿さん(39歳)

